

第3回 BeLive プレゼンテーションイベント

開催日：2023年1月21日(土)

開催場所：おかやま未来ホール（イオンモール岡山内）



主催：BeLive 実行委員会 共催：一般社団法人岡山経済同友会

後援：中国財務局 岡山財務事務所、中国四国地方環境事務所、岡山県、岡山県教育委員会、岡山県経済団体連絡協議会、一般社団法人 岡山県商工会議所連合会、岡山県経営者協会、岡山県中小企業団体中央会、岡山県商工会連合会、岡山県中小企業家同友会、国立大学法人岡山大学、大学コンソーシアム岡山、株式会社山陽新聞社、RSK 山陽放送株式会社、岡山放送株式会社、TSC テレビせとうち、RNC 西日本放送、KSB 瀬戸内海放送 (敬称略)

第3回BeLiveについて

「BeLive」は、^{ビークリブ} 高校生の持つ柔軟な発想と岡山に根差す企業・団体の力を掛け合わせた「SDGs」の取組・発表を通じ、岡山の新しい未来を創造するプロジェクトです。

私ども BeLive 実行委員会は、地域の持続可能な社会の実現を目指し、県内の高校生による「SDGs」への取組を応援します。行政や企業関係者等の前で発表する機会を提供することを通じて、高校生と行政、企業の連携を深め、地域の「SDGs」活動をより活性化させ、その取組を通じて地元への愛着や関心を高め、企業情報を知ることによって県内就職を考える一助になると同時に、高校生の自由で柔軟な発想に触れることで企業にとっても新たな視点を獲得する機会となることを期待します。

今年度の「第3回 BeLive」では、“高校生×企業”をテーマとして掲げ、複数回のイベントの開催を通じて、高校生と企業が関わりあう機会を創出してまいりました。その取組の集大成として、高校生による SDGs の取組を発表・表彰する「第3回 BeLive」プレゼンテーションイベントを開催いたします。

実行委員紹介

実行委員長

梶谷 俊介 (一般社団法人岡山経済同友会 代表幹事)

実行委員

狩野 光伸 (岡山大学 副理事 (企画・評価・総務担当)・SDGs推進企画会議 議長 (併任))

藤木 茂彦 (一般社団法人岡山経済同友会 SDGs研究・推進会議 座長)

室 貴由輝 (岡山県教育庁高校教育課 高校魅力化推進室 室長)

岡山 一郎 (株式会社山陽新聞社 論説委員会 論説主幹)

武田 憲和 (株式会社中国銀行 地方創生SDGs推進部 次長)

中山 奈都美 (株式会社中国銀行 地方創生SDGs推進部)

未来 (株式会社オーリス)

川崎 好美 (岡山県総合教育センター)

坂越 生章 (株式会社iプランニングKOHWA 活性化推進室 室長)

実行委員会事務局長

廣野 景治 (株式会社iプランニングKOHWA 代表取締役社長)

審査員紹介

審査員長 宮長 雅人氏 (一般社団法人岡山経済同友会 代表幹事/株式会社中国銀行 取締役会長)

審査員 鍵本 芳明氏 (岡山県教育委員会 教育長)

北脇 藍紗氏 (独立行政法人国際協力機構 JICA中国センター 岡山県国際協力推進員)

馬場 拓郎氏 (株式会社ありがとうファーム 取締役副社長)

樋口 竜悟氏 (真庭市役所 総合政策部 総合政策課)

舟木 敏視氏 (財務省 中国財務局 岡山財務事務所 所長)

森分 志學氏 (特定非営利活動法人だっぴ 代表理事)

門田 悦子氏 (有限会社田中製作所 代表取締役)

吉川 幸氏 (国立大学法人岡山大学 副理事 (共創教育・SDGs教育担当))

(五十音順)

審査基準

「理念」「持続性」「主体性」「参画力」「統合性」「発信力」「アイデア」の7つの項目を5段階で評価します。尚、同点のチームがある場合は、審査員の総合的な意見を基に決定いたします。

7つの項目	理 念	誰一人取り残さない、の理念で取り組んでいるか
	持 続 性	岡山県の発展のために継続して、実施または実用が可能なものか
	主 体 性	生徒たちが主体となり行動的に取り組んでいるか
	参 画 力	企業との協働やステークホルダーを巻き込んでいるか
	統 合 性	経済・社会・環境における課題解決に取り組んでいるか
	発 信 力	チームの取組を外部に発信しているか
	アイディア	創造性、革新性など、ワクワク感や夢のある取り組みになっているか

第3回 BeLive

プレゼンテーションイベント



参加校紹介



自動操舵システムで多数回中耕除草に挑む

1. 岡山県立瀬戸南高等学校 瀬戸南お米プロジェクト班

無肥料、無化学農薬の稲作を実現するための古くて新しい技術の実証試験を行い環境や作業者に負荷のない新しい農法を提供する。稲作1年生でどの作業・調査も初めてのことが多く苦労しました。



フードドライブ光南

2. 岡山県立玉野光南高等学校 SDGs学習会

私達は授業でも部活でもなく、純粋にSDGsに関心を持つ生徒の有志団体です。食品ロスについて学ぶ中で貧困の問題も深刻だと感じました。この2つを解決するために、保護者も巻き込んで、文化祭の機会にフードドライブを実施しました。フードドライブという言葉の周知から取り組み、多くの人にこれらの問題への関心を持ってもらうことに苦労しました。活動を通して広がった輪を、今後も広げていきたいと思えます。



ウクライナ支援募金を通して

3. 岡山県立和気閑谷高等学校 2年生

ウクライナの戦争のニュースを目の当たりにし、誰もが平等に教育を受ける権利について考えた。現地の子どもたちの教育のために本校商品開発のキーホルダーを返礼品とした「ガチャガチャ募金」を始めた。2年生みんなでデザインを考案し、和気町のデザイン会社の協力を得て、全12種類、300個のキーホルダーを完成させた。和気町、岡山市、備前市で計10回の募金活動をし、多額の寄付を集めることができ感謝している。



岡山高校コメ作り×エシカル消費プロジェクト2年目の取り組み

4. 岡山高等学校・JA全農おかやま/全農パルライス株式会社 岡山高校コメ作り×エシカル消費プロジェクト

岡山高等学校「コメ作り×エシカル消費」プロジェクトでは、瀬戸内市邑久町でコメ作りを行いながら循環型農業や地産地消などエシカル消費について学び、商品の販売や取り組み発表を通して学んだことを岡山県の皆様に広める活動を行ってきました。活動をしていく中でたくさんの学びや発見、そして出会いがあり、出会った方々とともに一歩一歩前へ進んできました。2年目を迎えてさらに進化した活動についてご紹介します。



ゴミを拾わないゴミ集め～「ちょっと面倒なこと」を楽しく習慣化～

5. 岡山県立倉敷青陵高等学校

情報ゼミ

年齢、性別、職業に関わらずほとんどの人が持っているスマホアプリを開発することによって、同じ地域に生きる人々を誰一人取り残すことなく、環境問題も含めたSDGs達成という共通の課題に対して、楽しく継続的に取り組むことができるようにするにはどのようにすればよいかということ意識して活動しました。時間や技術の面で自分たちの構想を現実のものとするには大変苦労しました。



水島小学校区の高齢化対策

6. 岡山県立倉敷中央高等学校

White Lily

本校の使命は地域に貢献する生徒を育てることです。1年生で水島を訪問するなどして地域を知る活動をしています。それらを発展させる為、岡山大学と協力し年2回のペースで地域について話し合ってきました。そこで出た課題や実践したことを今回発表します。水島小学校区の高齢化問題の解決策をグループで考える過程で話し合いを円滑に進める為のコミュニケーションの取り方や、そのアイデアを表現するための工夫に力を尽くしました。



倉敷発信プロジェクト

7. 倉敷高等学校

倉敷高等学校 商業科

アートの制作に出来るだけ多くの人に参加してもらい倉敷（自分の住むまち）について目を向ける機会にして欲しい。廃棄するジーンズを集め、再生された糸を使って倉敷の花「藤」を描く。



精思高校SDGsの取り組み ～学びを地域をひろげよう～

8. 倉敷市立精思高等学校

精思高校 商業クラブ

今年は、私たちがこれまで学んできたことを、地域の方々や関係団体と共有したり一緒に体験したりしてきました。特に苦労したことは、高齢者や小学生など、様々な方にもわかりやすく伝えるのは大変でした。



ジェンダーとトイレ

9. 岡山県立烏城高等学校

toilet twins⁺

私たちtoilet twins⁺は、性的マイノリティーや車いす利用の方が、生活しやすい社会になるように、トイレのことを中心に調査し、さまざまな発表機会を通じて情報発信をしてきました。繊細でプライバシーに大きく関わるLGBTQ+がテーマだったので取材を断られたり、多目的トイレの写真を撮っていると不審がられたりもしましたが、多くの方々のご協力でここまで活動ができています。



身近な野菜・果実を原料とした透明な紙の作成方法についての研究とその使用方法の考案

10. 岡山県立玉野光南高等学校

探究活動・環境班

専門機関で研究されているセルロースナノファイバーを、身近な素材として使用できるように、簡単に入手できる原料や身近な機材を用いて作成する方法にこだわって研究しました。学校生活の限られた時間の中で、1枚の製作に最低2日はかかる中、比較を行うため何枚も作成をしました。何度も失敗をし、試行錯誤を繰り返し、非常に根気が必要な日々でしたが、一定の結果を得ることができ、非常に充実した研究期間となりました。



Project 蒜香

11. 岡山県立勝山高等学校蒜山校地

地域活性化を担う「次世代」とは、誰なのか?…本校地の生徒たちは、学校設定教科「蒜山/CP」の活動を通して、ある結論に辿り着きました。また、卒業していった先輩たちから託された「理念の継承」というバトンを、さらに自分たちの後輩に、どう手渡していくかについても、それぞれが工夫を重ねてきました。岡山県で最も小さな、そして最も北にある県立高校の取り組みについて、お話しします。



syako canがつなげる「海の豊かさ」と「陸の豊かさ」

12. 岡山高等学校

L.I.O

瀬戸内海の海洋課題についての探究学習を行う中で、シャコの漁獲量が激減していることを知りました。開発した缶詰を通して、再び岡山の地域の味に触れていただくとともに、海と陸の両面から瀬戸内海の海洋環境をより豊かにしてゆこうというメッセージを発信しています。貴重な食材を最大限に活用するための工夫にもご注目ください。発表を聞いて興味を持ったらずひsyako canを食べてみてください。



「自分を取り戻す」場所

13. 岡山県立烏城高等学校

ハッピーセット

私たちは、プレゼン発表が初めてだったので、スライドにまとめる作業に戸惑いとても苦労しました。しかし、こういった初めてのことに挑戦することは大切だと思いました。また、協力してくださった方々への感謝の気持ちを忘れずに作成しました。私たちは「誰一人取り残さない」の理念を掲げこの発表を作りました。ご来場の皆様が少しでもSDGsについて興味を持っていただけると嬉しいです。



環境問題とフードロスを意識し、先輩から後輩に繋げる課題解決型SDGs

14. 岡山県立倉敷古城池高等学校

倉敷古城池高等学校ワッショイ!とーかーず 子ども食堂チーム

深刻なフードロス「変えるのは私達の世代だ」とSDGsとPBLを強く意識し行動を起こしました。古城池高校には「世代を超えたコミュニティ=子ども食堂」の活動があります。サルベージパーティー、小学校出前講座、FM局出演など福田公民館や子ども食堂ミソラなど地域との連携を大切に活動を広げてきました。この度東京の大企業との連携でさらに活動が広がり「進路決定後の高校3年生」のモデルとなるような活動に挑戦します。



第1回BeLiveプレゼンテーションイベント



第2回BeLiveプレゼンテーションイベント



第2回BeLiveアフターイベント

(敬称略・五十音順)

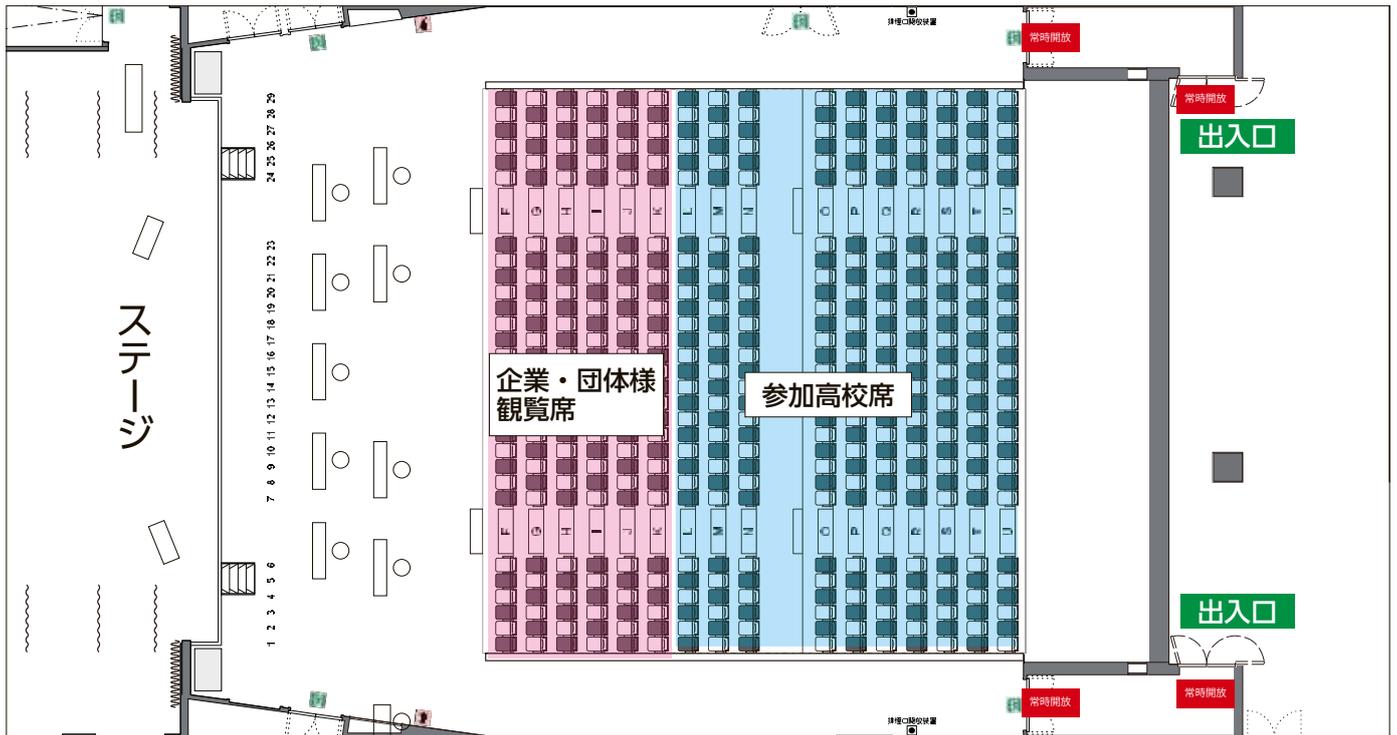


一般社団法人 岡山経済同友会



ありがとうございます。

会場図



※新型コロナウイルス感染予防対策のため、1席空けてご着席ください。

タイムスケジュール

10:00~10:30 受付

10:30~ 開会

審査員紹介／協賛・後援紹介

開会挨拶 BeLive実行委員長 梶谷 俊介 氏

11:00~ プレゼンテーション

1. 岡山県立瀬戸南高等学校／瀬戸南お米プロジェクト班
2. 岡山県立玉野光南高等学校／SDGs学習会
3. 岡山県立和気閑谷高等学校／2年生
4. 岡山高等学校・JA全農おかやま／全農パルライス株式会社／岡山高校コメ作り×エシカル消費プロジェクト
5. 岡山県立倉敷青陵高等学校／情報ゼミ
6. 岡山県立倉敷中央高等学校／White Lily
7. 倉敷高等学校／倉敷高等学校 商業科
8. 倉敷市立精忠高等学校／精忠高校 商業クラブ
9. 岡山県立鳥城高等学校／toilet twins⁺

12:30~13:40 食事休憩 (70分)

13:40~ プレゼンテーション

10. 岡山県立玉野光南高等学校／探究活動・環境班
11. 岡山県立勝山高等学校蒜山校地
12. 岡山高等学校／L.I.O
13. 岡山県立鳥城高等学校／ハッピーセット
14. 岡山県立倉敷古城池高等学校／倉敷古城池高等学校ワッショイ!とーかーず 子ども食堂チーム

14:30~15:00 休憩・審査・アンケート記入 (30分)

15:00~ 審査結果発表

審査結果発表

審査員長メッセージ 宮長 雅人 氏

15:20~15:30 メッセージ

岡山県教育委員会 教育長 鍵本 芳明 氏

15:30~ 閉会

閉会挨拶 BeLive実行委員 藤木 茂彦 氏

15:40~15:55 フリー (記念撮影／交流)

参加者アンケート



本日はご参加ありがとうございました。今後のイベント運営の参考にしますので、お手数ではございますが、該当のQRコードよりアンケートにご協力ください。

高校生・引率教員様
←こちらから

観覧者様 (企業・団体の方、参加チーム以外の教員の方)
こちらから→

